

効果的な広報について

<消防庁の取り組み>

「住宅防火7つのポイント」の普及広報を通じて「寝たばこの防止」を呼びかけている。

<消防本部独自の取り組み>

広報媒体に火災の現場写真を使用し、火災予防広報を行っている消防本部もある。



出展：京都市消防局ホームページ



出展：東京消防庁ホームページ

<消防庁、全国消防長会及び（一社）日本たばこ協会の連携した取り組み>

各団体が連携して「たばこ火災防止キャンペーン」を実施し、「こけし」を用いたポスターやポケットティッシュを作成・配布し、また、電車に車内広告を掲載する等、寝たばこ火災防止広報を実施している。



出展：（一社）日本たばこ協会



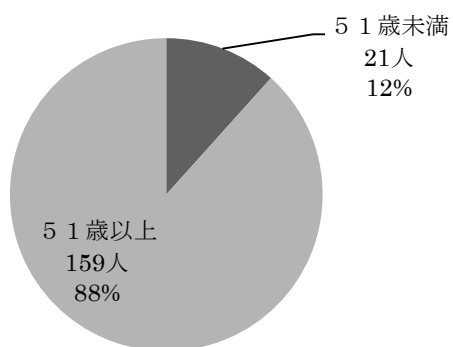
ポケットティッシュの配布

<広報の対象について>

たばこ火災による死者の約9割は、51歳以上である。

また、熟年男性（55歳～59歳）の階級の住宅火災死者の特徴として、たばこからの出火が多いことがあげられている。

出火原因がたばこの場合の死者発生状況
(全火災)



平成24年中火災データより

熟年男性（55歳～59歳）の階級の住宅火災死者の
特徴

- ① 無職の割合が多い（約6割）
- ② 一人暮らしの割合が多い（約5割）
- ③ たばこからの出火が多い。

平成18年8月消防庁報道発表資料より